

成蹊学園 広報



2010
Autumn
vol. 79
SEIKEI GAKUEN

蹊

Series 学園史料を読む



中・高蹊祭



小学校オーストラリア体験学習



四大戦

成蹊教養カリキュラム、始動

桃李成蹊科目

—成蹊教育の特色、地域とのつながりを学ぶ—



インタビュー
桃李の
人々

俳優
片桐 はいり

若者文化が息づく吉祥寺に
キャンパスがあることは大きなメリット
感性が刺激され、豊かな学生生活を
送ることができました

Contents

- 2 「成蹊教養カリキュラム」始動
- 4 第4回 成蹊音楽祭
- 5 桃李の人々 (片桐 はいり)
- 8 成蹊教育のいま (池上 裕子/林 久博)
- 10 百年十話 —成蹊学園の歴史—
- 12 成蹊学園創立100周年
記念事業特集 (成蹊小学校)
- 14 大学の近況
- 16 中学・高等学校の近況
- 18 小学校の近況
- 22 クローズアップ
音楽を統合のシンボルに (福村 芳一)
- 23 学園トピックス
- 24 学園史料を読む



成蹊大学第1回公開講座のポスター

近年、いろいろな大学の公開講座の広告を見かけるようになり、また、大学をより広く社会に開かれた存在にしようという時代の要請に応えて、各大学がさまざまな企画をたてています。成蹊大学は、一九八三(昭和五八)年に公開講座を開設し、現在に至っています。講座の一覧表からは、それぞれの時期に社会で何が問題とされ、人々の関心を集めていたか、その一面が浮かび上がってきます。

成蹊大学は、かなり早い時期から、所在地である武蔵野市との協力のもと、地域社会への貢献活動を行ってきました。

一九五二(昭和二七)年、「武蔵野

地域社会と大学

市総合社会調査」に着手しました。これは、武蔵野市の政治、経済、社会構造の諸側面を調査分析し、その結果に基づいて地域社会のあり方を総合的に把握しようとする試みでした。その成果は、一九五二(昭和二七)年から一九五七(昭和三二)年にかけて、『武蔵野市』全三巻として公刊されました。

一九六二(昭和三七)年度から一九六八(昭和四三)年度まで、「武蔵野市政講座」を開設しました。これは、都市行政担当者が大学の関連科目を聴講できる制度です。それとともに、市政に対する市民の理解を高め協力を得るため、一九七二(昭和四六)年度まで年数回程度公開講演会を開きました。

一九八二(昭和五七)年、「シルバー聴講生制度」を設けました。これは、武蔵野市在住の六〇歳以上の市民が一般学生とともに大学の授業に参加するというもので、高齢化社会を迎えつつある中、ユニークな生涯学習制度として注目されました。

このように成蹊大学は、時代と社会状況を先取りして、地域社会に根づくための活動を展開してきたと言えるでしょう。

(成蹊学園史料館 若林美佐知)



成蹊学園史料館 2010年度特別講演会

旧制私立高等学校の転換過程

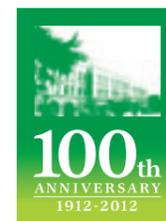
—大学誕生の比較史—

日 時：2010年12月9日(木) 13時～(12時半開場)

場 所：成蹊学園史料館2階研修室

講演者：杉山和雄氏(成蹊大学名誉教授)

入場無料・事前予約不要 *どなたでもご参加いただけます。



成蹊学園広報

2010年11月10日発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話(0422)37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

お問い合わせ先

成蹊学園史料館

〒180-8633

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

Tel:0422-37-3994 Fax:0422-37-3298

E-mail:archives@jim.seikei.ac.jp

※詳細は決定次第HPなどでお知らせします。

<http://www.seikei.ac.jp/gakuen/hm.html>





**成蹊教養カリキュラム
基本構造**

創立者中村春二の理念である「個性尊重の人格教育」を受け継ぐ「桃李成蹊科目」、「社会性の育成」「国際性の育成」という二つのテーマと「人間形成系統」「文化創造系統」という二つの系統を組み合わせた科目群で構成されています。

成蹊教養カリキュラム 始動

文理の枠を越えた幅広い教養と確かな英語力の修得を目指し、「成蹊教養カリキュラム」がスタートしました。

Pick Up
授業紹介

成蹊と地域の共生をめざして 吉祥寺という街を知る

担当教授からの授業紹介

武蔵野地域研究 — 吉祥寺人が吉祥寺の魅力語る

文学部教授 高田 昭彦

成蹊大学をより地域に開かれたものにしていくために、大学の立地する地域のことをもっと知ろうと新しく開講されたのが「武蔵野地域研究」です。今回は学生の誰もが利用している吉祥寺を取り上げました。

吉祥寺の特色、魅力、活力、癒し力等について、吉祥寺の商店街の方、ハモニカ横丁の店主、古本屋の青年店長、吉祥寺まちづくり事務所の所長さん、武蔵野市商工会議所の会頭さん、旧近鉄裏のストリップ劇場を撃退し

た住民、地域のミニコミ誌の編集者の方々に話していただきます。その方々が直接学生に自らの経験をもとに語りかけ、これからの吉祥寺について学生と討論をしていきます。今回は学生の受講者は15人、従ってゼミ形式の熱い議論が期待できます。講師の中には、講義に先立って学生への課題やアンケートを用意している方もいらっしゃいますので、学生もうかうかできません。

授業は木曜日の4限、2-410教室です。ただし場所は大学外の場合が3回あります。ハモニカ横丁、本町コミセン、商工会館の3か所です。事前に事務室で確かめてください。授業計画の一部を次に示しておきます。授業終了後、希望者で講師の方を囲んでお茶を飲みながらもっと突っ込んだ話を聞くこともあります。



第2回 手塚一郎さんの経営するハモニカ横丁の店舗にて



第3回 榎本樹廣さんを教室に迎えて

授業計画

- 第1回 吉祥寺の歴史と授業の進め方(高田)
- 第2回 手塚一郎さん (ハモニカ・キッチン等、VIC) 「なぜハモニカ横丁なのか？」
- 第3回 榎本樹廣さん (セレクト・ブックショップ百年) 「吉祥寺でオルタナティブに生きるには」
- 第4回 大塚省人さん (武蔵野市都市整備部 吉祥寺まちづくり事務所 所長) 「都市計画の視点から見た吉祥寺の都市基盤の課題」、「吉祥寺駅南口周辺の再開発」
- 第5回 瀧井隆也さん (武蔵野市観光推進機構 事務局長) 「観光推進機構の生立ちとこれから」、「ソフト面から見た吉祥寺のまちづくり」
- 第6回 本田拓夫さん (吉祥寺活性化協議会 会長、吉祥寺ハウスアター) 「活性化協議会と吉祥寺文化、特に映画の歴史」
- 第7回 近藤溪子さん (吉祥寺東部地区街づくり協議会 会長) 「元近鉄裏ビックル街を歩く:地図と写真で見る往時の風景」

- 第8回 三宅治光さん (武蔵野市開発公社 常務理事) 「開発公社の生い立ち、吉祥寺再開発の経過、キーテナントの誘致」
- 第9回 授業の中間まとめ(高田)
- 第10回 稲垣英夫さん (武蔵野市商工会議所 会頭) 「吉祥寺再活性化に向けての商工会議所の取り組み」
- 第11回 河田弘昭さん (NPO法人 市民まちづくり会議・むししの 副代表) 「吉祥寺カルチャー・音楽とアニメ」、「歓楽街比較の中での吉祥寺」、「住みやすい地域比較(吉祥寺、下北沢、自由が丘)」、「ジョージクラブ/吉祥寺っ子の若者たち」
- 第12回 大橋正治さん (『週刊きんじょう』発行人) 「吉祥寺のメディア状況」
- 第13回 渡邊大輔さん (成蹊大学文学部現代社会学科調査実習 助手) 「武蔵野市民が見た吉祥寺—4年間の社会調査実習武蔵野市調査より」
- 第14回 授業のまとめ(高田)

受講学生の声

僕は、成蹊に入学するまでほとんど行ったことがなかった吉祥寺の街を知りたいと思い、また課外授業的な性格の授業に興味を持ち、この授業を履修しました。週替わりでお話を聞く講師の方々だけでなく、高田先生もこの街をよくご存じて、1年生のみの授業とはいえ、ただ聞くだけでなくどうすれば吉祥寺をよりよくできるか、さまざまな立場の講師の方々の意見を参考に考えています。吉祥寺を歩く度に新しい発見ができるようになる授業です。

文学部現代社会学科1年 鶴見 直也さん

Pick Up
授業紹介

成蹊のアイデンティティを求めて 成蹊の歴史や教育の特色を知る

担当教授からの授業紹介

成蹊を知る

経済学部教授 北川 浩

成蹊教養カリキュラムでは、成蹊の特色を内外に強くアピールするために「桃李成蹊科目」という科目群が設けられています。その中



講師の上田祥士先生による第4回「中村春二の人物像」の授業

でも「成蹊を知る」という科目は、文字通り成蹊の歴史と成蹊教育の特色を学ぶための科目であり、象徴的な位置づけにあるといえます。授業内容は、基本的には成蹊実務学校からの成蹊の沿革を通史的に概説することを軸として、時代背景、教育内容、人物像などの話をおりまぜていきます。とりわけ大正自由教育運動全体からみた中村春二の位置付けや岩崎小彌太の経営思想と三菱財閥の形成などは成蹊を知る上で欠かせないトピックスだと思います。

学生のみなさんに、中村春二が目指した理想の教育とは何であったのか、また戦後の混乱期を成蹊学園はどのように乗り切ってきたのかなどを伝えていきたいと思っています。特に成蹊教養カリキュラムの柱の一つになっている「自力教育」の概念は大切であり、学校では

自分が生涯にわたって自ら成長するための礎を築くのだということ意識して欲しいと思います。卒業後に「自分は成蹊の出身だ」と胸を張って誇れるようになって欲しいと思っています。成蹊にはそれだけの誇り高い学風と伝統があるのですから。



吉祥寺移転当時の成蹊学園本館

受講学生の声

私は高校生の時に成蹊大学を見に来て、ワンキャンパスなのにとても開放感があり、学生がのびのびと楽しそうにしている姿にあこがれ、受験することに決めました。実際に生活してみると本当に良い大学だと思っていますが、私はふと成蹊について、ほとんど何も知らないということに気づきました。誰がいつ創ったのか、よく聞く三菱との関係はどうなのかなど、自分がこれから名前を背負っていく成蹊大学について、たくさんを知りたいと思い、この授業を選択しました。授業では創立者の中村春二先生のことや、四大学(甲南大学)との関係、成蹊大学に關係する偉大な人物など、たくさんことが聞けるだろうと期待しています。自分の母校になる成蹊大学のすばらしさを人に語れるよう頑張りたいと思います。

法学部法律学科1年 野原 衣里さん

上記の授業計画は、状況により変更になる可能性があります。

インタビュー
桃李の人々 卒業生ロングインタビュー
 vol.27

演劇部の初舞台で満たされず
 演劇を続けようという気持ちに
 — 成蹊大学文学部を志望された動機か
 ら教えてください。

片桐 子どもの頃から、古典文学に親しみ、とくに軍記物に夢中で、『平家物語』などを読んで、武将や馬の名前を覚えるのが大好きでした。

そんな私にとって、武蔵野は憧れの地でした。文人たちが数多く住み、文学の香り高い街だからです。その武蔵野にキャンパスがある成蹊大学に入學すれば、いつでも学生同士で熱く文学を語り合うことができるに違いない。そんなイメージを持っていただけに入學の動機です。



ヘアメイク/森麻実 (noi)

俳優

片桐 はいり

Hairi Katagiri

『かもめ食堂』『鑑識・米沢守の事件簿』などの映画や、テレビドラマ、舞台などに多数出演。個性派の俳優としての地位を確立されている片桐はいりさん。成蹊大学時代に演劇部に所属したことが、演劇の道に進む第一歩になっているようです。当時の思い出と、後輩たちへのメッセージを語っていただきました。

— 入学後、すぐに演劇部に所属したのですか。

片桐 最初は映画研究会に入ろうとしました。今でもそうでしょうが、当時もサークルの新入生勧誘は活発で、さまざまなサークルの先輩がご馳走してくれたり、甘い言葉で勧誘してきました。ところが、映研は勝手が違いました。「8ミリ映画を作っているんですけど、私も出演してみたいな」と、目いっぱい可愛く振る舞ったつもりなのですが、先輩部員は私の顔をじっと見て、「映画でアップで映るよりは、遠目の舞台の方

— 演劇部で最初に出演されたのはどんな作品だったのですか。

片桐 アガサ・クリステイの『ねずみとり』です。私は高校時代に、唐十郎や、つかこうへい作品などを読んでたし、大学の演劇部といえ、そういう小劇場作品を上演するものと思いついていたので、「えっ、そんな名作をやるの」と、とまどいました。もともと、思想性に走らないところが、成蹊大学の演劇部らしいところかもしれません(笑)。

与えられたのは犯人の姉の役でした。謎の女性という設定なのに、なぜか私が登場しただけで爆笑が巻き起こってしまいました。期待を裏切られ、失望して号泣しました。私が期待していた

— 大学入学以前から、演劇にも興味を持っていましたか。

片桐 映画の方が好きでした。といってもマニアックなファンではなく、ハリウッドの評判になった作品を見ていた程度です。一方で、やはり興味はあったのでしょう。中学、高校と、演劇部にも顔を出していました。1回だけいいから舞台に立ってみたいという気持ちだったのですが、残念ながら、その願いは叶いませんでした。

方が生きるんじゃないか」と、クールに言い放ったのです(笑)。

仕方なく演劇部に行くと、ちょうど予定していた公演に必要な女性部員が不足していたため、「ぜひ入ってくれ」と熱く誘われました。映研と違って、求められるのならば(笑)、演劇部に入部することにしました。

若者文化が息づく吉祥寺に
 キャンパスがあることは大きなメリット
 感性が刺激され、豊かな学生生活を
 送ることができました



成蹊学園創立 100周年記念 第4回『成蹊音楽祭』開催

「成蹊音楽祭」のテーマは『宇(いえ)は大なり』。今年で4回目を迎える成蹊音楽祭は、小学生から卒業生までの音楽団体が参加し、学園全体が一体となって行う音楽祭です。

開催日 **2010年12月26日(日)**
 13:00 [開場 12:30] ~
 会場 **成蹊学園 本館大講堂**
 対象 在校生、卒業生、保護者、教職員、旧教職員、武蔵野市在住・在勤・在学の方々
 ※入場無料、事前申し込み不要

プログラム

出演団体	
小学校	箏曲有志の会
小学校	和太鼓部
成蹊OB	成蹊グリークラブ 指揮：成蹊OB・グリークラブ所属 柏陽一
保護者	成蹊コーラス 指揮：相澤 直人
小学校	ブラスバンド部
大学、成蹊OB・OG	成蹊けやき管弦楽団 [第一回定期演奏会] 指揮：高井 優希

お問い合わせ先>>>広報課：電話 (0422) 37-3517
 *詳細は決定次第HPなどでお知らせします。
<http://www.seikei.ac.jp>

招聘指揮者



あいざわ なおと
相澤 直人氏

1978年、東京都生まれ。東京藝術大学作曲科を経て指揮科に再入学。作曲を故・宍戸睦郎、野田暉行、尾高惇忠の各氏に、指揮を松尾葉子、鈴木織衛の各氏に師事。病気により指揮科を中退するが、その後合唱指揮者として、ジャンルや年代を問わずさまざまな団体の指揮、指導をしている。

現在、あい混声合唱団常任指揮者、アンサンブル桃花常任指揮者、東洋大学混声合唱団常任指揮者、成蹊コーラス指揮者、リリカ・ルビス指揮者、杉並オラトリオ指揮者、東京シティオペラ協会合唱団指揮者、女声合唱団をよかぜ指揮者、ジュニアコーラス・フェアリーズ音楽監督、他、10余の団体の常任、客演指揮に携わる。KEI音楽学院ソルフェージュ科講師。日本合唱指揮者協会会員、同実行委員。かながわ合唱指揮者クラブ会員。



たかい ゆうき
高井 優希氏

(成蹊小学校~成蹊高等学校 2003年卒業)

1984年、東京都生まれ。幼少よりピアノを学ぶ。成蹊高等学校を卒業後、東京藝術大学音楽学部指揮科入学、2007年、同大学を首席で卒業。アカンサス音楽賞受賞。

2009年からは、ライプツィヒ・メンデルスゾーン音楽演劇大学にて、さらに研鑽を積んでいる。ウルリッヒ・ヴィントフーア氏、田中良和氏に指揮を師事。また、故佐藤功太郎、小林研一郎、小田野宏之、松尾葉子、故エルヴィン・アッツェルの各氏の薫陶も受けている。

これまでに、国内外の数多くのオーケストラ、合唱団、吹奏楽団を指揮しているほか、オペラの分野でも、東京室内歌劇場、藤原歌劇団などの一部の公演で副指揮者を務めている。2007年には、岡倉天心が台本を書いた未完のオペラ『The White Fox (白狐)』(戸口純作曲・室内オーケストラ版)の世界初演指揮者に抜擢され、注目を集めた。国内外で今後の活躍が最も期待されている若手指揮者の一人。



のは、自分とは異なる役柄になりきることで、その人物が私の体に乗る移り、別次元の世界が体感できるのではないかということです。ところが、登場しただけで笑われるし、そうなるも私も調子にのってどんどん笑いをとってしまうし(笑)。まったく満たされなくて泣いてしまったわけですが、周囲は初舞台に感動して泣いていると思っていたようです(笑)。もっとも、この舞台で満足していたら、いい思い出として、そこで私の演劇活動は終わっていたかもしれないですね。達成感が薄かった分、もう少し続けてみようという気持ちが生まれた気がします。

具を作り、その後、他の劇団員が寝ている間に卒論を書いていました。この1カ月間は、疲れ果てて机に突っ伏して仮眠をとるだけで、1回も布団で寝ていません。

卒論提出当日も、自分で提出に行く時間がなかったで、同期生で現在歌人として活躍している林あまりさんが、劇場まで取りにきてくれました。後で聞くと、遠藤先生は受付の前で待ち構えていて、「ああ、間に合ったか」と、ほっとした顔で受け取ってくれました。温かい先生の人柄に感謝しています。

いつまでもつかみどころのない俳優のままで通したい

舞台出演と並行して 連日徹夜で卒論を作成

— 大学時代に印象に残っている授業を教えてください。

片桐 遠藤宏先生の上代文学の授業です。小声で授業をされる先生で、しばらくすると学生が私語を始めます。すると、先生は虚空を見つめて沈黙されます。何事が起こったのかと学生が驚き、静まるとまた授業が再開されます。これは演技にも通じるところがあると思います。文学座の杉村春子先生も同じで、どんなに他の出演者が大声を張り上げて演じていても、観客はそれほど集中力を高めませんが、とつても小さなお声ですが杉村先生が語り始める

と、観客は身を乗り出します。イソップ寓話『北風と太陽』の教訓にあるように、人を惹きつけるには、威嚇するのではなく、一歩引くことも大切なのだと学びました(笑)。

ただし、遠藤先生の場合は、学生に授業を真剣に聞かせるためのテクニクだったわけではなく、ご自身が万葉の世界にうっとり没入されて、沈黙考されているのではないかとこの説もありました。それもまた素敵なことだと思います。

— 卒業論文はどんなテーマで作成されたのですか。

片桐 遠藤先生のゼミに所属し、『古事記』をテーマに選びました。まだ解明されていないことが多い上代文学のミステリアスな世界に惹かれたからです。問題は、卒論の提出締切日が、下北沢の「ザ・スズナリ」という劇場の公演日と重なっていたことです。提出までの1カ月間は、舞台稽古の後、宣伝用のチラシを配り、衣装を縫い、小道

— プロとして演劇活動をされるようになった経緯を聞かせてください。

片桐 正門前にあった喫茶店のアルバイト店員が劇団関係者で、演劇部の舞台で私の演技を見て、劇団に入らないかと勧誘してきたのです。大学2年生の時のことです。入団後、すぐに『電気果実物語』という作品でデビューが決まりました。

私がいた劇団は、アングラの雰囲気をもった劇団で、演技に対する考え方がそれまでとはまったく異なり、新鮮に感じられました。成蹊大学の演劇部は、アクターズスタジオのメソッド演技を追求したりしていました。感情の開放を重視し、皆の前に一人で立って、

スポットを当てられ、罵倒される中で何かを表現するといった訓練をしていました(笑)。私の演技は、器用なだけで心が伴っていないと批判されることも多々ありましたが、それに対して、入った劇団はSF演劇で、役柄もありえないような設定ですから、役になりきるなんて無理です(笑)。観客を沸かせることが最大の価値であり、さまざまな演技論の呪縛から開放されて、伸び伸びと演じられるようになっていきました。

— 大学卒業後も、そのままプロとして活動していることと決意されたわけですね。

片桐 いえ、意外に冷静でした。舞台がそれなりに話題になり、テレビでも取り上げられるようになっていきましたが、このブームがずっと続くはずがない。卒業後は企業に就職しようと考えて、実際、就職課に求人票を見に通っていました。ところが、その頃、広告代理店の電通から「明石家さんまさんとの共演で、ミスタードーナツのテレビCMが決まった」という連絡が入ったのです。「いや、普通に就職しますから、やる気はありません」と断ったところ、「冗談じゃない。もう決まった話だ」と烈火のごとく怒られました。あまりの剣幕に恐れをなして、仕方なく収録に向いたというのが正直なところです。その時、予想外に多くのギャランティーをいただき、「これでしばらくは就職しなくても大丈夫」と思ってしまったことと、このCMを契機として

てテレビ出演の依頼が相次いだことからそのままプロとして活動することになりました。

— これまでの活動の中で、とくに印象に残っていることを教えてください。

片桐 二〇〇六年公開の『かもめ食堂』が思い出深いですね。当初、東京では「シネスイッチ銀座」で単館上映だったのですが、この映画館は、私が大学時代にもぎりのアルバイトをしていた場所です、不思議な縁を感じました。また、この映画は小林聡美さんが主演でした。私は映画『転校生』が大好きで、スクリーンで何度も見ていただけに、そんな方と並んで舞台挨拶を行った時には、鳥肌が立つようなものを感じました。

『かもめ食堂』は、すべてのシーンがフィンランドで撮影されました。そのロケの様子や、日本との撮影方法の違いなどの裏話も交えて、『わたしのマトカ』という著書にまとめました。幸い好評で、その後、『キネマ旬報』で連載した『もぎりよ今夜も有り難う』など、ここ数年は原稿を書く仕事も増えていきます。原稿用紙五十枚以上の文章を書くのは卒論以来なので、苦戦していますが……(笑)。

— 今後はどのような活動をめざしていきたいと考えていらっしゃいますか。

片桐 先日、あるテレビで、伊東四朗さんが「俺の体は八十%喜劇だ。どう演じて喜劇になる」とおっしゃって

いたのを聞き、私もいつかそうなりたい！と憧れます。喜劇といってもジャンルは幅広いのですが、私の中でこの作品は笑えると判断できるもの以外には出演しないつもりです。最近では、NHK教育テレビ『時々迷々』に出演。機械の役など、日常ではありえない設定のキャラクターを演じています。本来なら、相応の年齢になったのですから、コスプレをする役は断って、「最近、しつとりしたい女優になったね」と言われるようにならないといけないのかもしれません(笑)。私はあえてそうなりたくはない。いつまでも、少し危ない部分のある、つかみどころのない俳優のままで通したいと思います。

自由で豊かな時間が流れていた大学時代

— 成蹊大学時代に学んだことが、その後の活動に生きていると感じられることはありますか。

片桐 成蹊大学は自由な校風で、何かを押しつけられた記憶がまったくあり



ません。のびのびとした雰囲気の中で、樗並木を歩きながら友人と将来のことを語り合ったり、時には井の頭公園でボートに乗ってデートしたり、豊かな時間が流れていました。それが私の性に合っていたと思います。

若者文化が息づく街・吉祥寺にキャンパスがあることも大きな魅力です。映画、演劇、ライブなどにもよく行き、大いに感性が刺激されました。成蹊大学の学生にとっては、そんな学生生活を送るのが、ごく当たり前ののでしょすが、今振り返ると、それはとても恵まれた環境だったことが分かります。

— 最後に、成蹊大学の後輩たちにメッセージをお願いします。

片桐 最近痛感しているのは、大学時代にもっと勉強しておけばよかったということです。自分で本を書くようになったこともあって、心理学、文化人類学、比較文化など、さまざまなジャンルに興味広がっているのですが、自分で本を買って勉強しようとするたびに、「そういうえば、大学時代にこの学問に関連する科目も履修していた。素晴らしい教授もたくさん在籍されていた」ということに気づくのです。後輩の皆さんには、現在がとても恵まれた学びの環境にあることのありがたさを自覚して、積極的に学んでほしいと願っています。

(広報課)



片桐 はいり (かたぎり・はいり)

1963年、東京都生まれ。成蹊大学文学部日本文学科卒業。大学在学中に、演劇部で活動した後、劇団に入団。その後、『かもめ食堂』『鑑論・米沢守の事件簿』『なくもんか』などの映画、『ママさんバレーでつかまえて』『時々迷々』などのテレビドラマ、『学おじさん』『R2C2』などの舞台に出演。個性的な俳優として高く評価されている。著書に『わたしのマトカ』『グアテマラの弟』(いずれも幻冬舎)、『もぎりよ今夜も有難う』(キネマ旬報社)がある。



大学・文学部

自ら赴き、歴史の痕跡を
探し、感じる

日本の中近世移行期研究
いけがみ ひろこ
池上 裕子
成蹊大学文学部国際文化学科 教授



新潟県佐渡に生まれる。一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得。1991年より成蹊大学文学部に着任。過去・現在に神奈川県・新潟県・小田原市・八王子市・町田市等の文化財保護審議会委員を務める。「戦国時代社会構造の研究」(校倉書房、1999年。成蹊大学より出版助成を受ける)で2000年に角川源義賞を受賞。楽しみはカメラ(亀)グッズを集めること。

中世とはどんな時代か、
さまざまな面から考える

わたしは日本史を専攻していきまして、今はおもに三つのことに取り組んでいます。

一つ目は、大学院に入って以来の研究テーマである戦国時代の研究です。このころは少し時期を広げて、十五世紀の後半から、江戸時代前期にあたる十七世紀末までを対象に考えています。戦国大名が活躍し、統一政権ができたこの時代は、日本の社会全体の大きな転換期に位置しているとともに、中世から近世への移行期に位置していると考えられています。

そこで、この時代に何がどう変化したのか、中世から近世への移行はどのように行われたのか、そ

も中世とはどんな時代なのか、古代や近世とどう違うのか、そんな問題を考える必要があります。そのためには、さまざまな側面からの検討が必要になります。

その一つに、支配者の政策、たとえば武士(領主)をどのように編成したか、その経済基盤をどう保障したか、農村・農民、都市・町人をどのように支配したか等の検討があります。戦争の時代でしたから、そのトータルを軍勢力としてとらえることもできます。

もう一つは、支配される側の農民や町人がどのような社会をつくり、どのように生活・生産・経済活動を営んでいたか、自治組織が発達した時代ですから、自治や自立性の実態はどのようであったかの検討です。

高校の日本史教科書にはその両方が一応は書かれていますから、もうみんなわかっているのではないかと思います。かと思われかもしれませんが、そうではないのです。とくに、後者の民衆のことはわからないことが多いです。民衆の側に視点をおいて支配者の政策をみると、これまでの評価や意味づけを变える必要があると思われるところも出てきます。



写真1：中世の多摩川渡河点近くにあった関戸宿の跡(東京都多摩市)に鎮座する熊野神社



写真2：中世、特に13～15世紀に関東地方で多くつくられた板碑(板石塔婆ともいう。石でつくった供養塔)。文字資料が少ない関東地方では貴重な歴史研究資料



写真3：地元の人びとの信仰を集め続けている石仏。都市化が進んだ横浜市内でも、こんな場面に会います

地域を歴史的視点でとらえる楽しみ

二つ目の取り組みは、自分が住んでいる地域の研究です。わたしが住む横浜市の北端のあたりはかつて武蔵国都筑郡、隣の川崎市あたりは橋樹郡といいました。この二つの郡の範囲は現在の暮らしの中でも近い関係にありますし、戦国時代には小田原に本城があった戦国大名北条氏が小机城という支城をおいて支配した小机領の範囲に入ります。そこで最近、地元の歴史好きの人たち十人ほどで都筑・橋樹勉強会という集まりをつくって勉強をはじめました。研究発表のほかに、明治期と今の地図を手に日中歩いて、寺社や墓地や村の様子などをみて回ります。そのとき写真2のような板碑に出会えると、みんな興奮してしまいます(ただし、写真1・2は二つ目の取り組みのために歩いたときのものです)。

三つ目の取り組みは、東京の多摩地方にある市の市史編纂に昨年携わったことになったことです。ここでも土曜・日曜に市域を歩いて過去の人びとの暮らしの痕跡を探し感じること、資料を調べることに取り組んでいます。

以上の三つでこのころ特に心がけていることは現地に行くこと、歩くことといえます。

小学校

ドラマ教育で
コミュニケーション能力を!



国語科教育
はやし ひろこ
林 久博
小学校教諭

1960年生まれ。1986年より現職。現2年南組担任。研究主任。国語科担当。著作に「話すこと聞くことの指導(共著)」「探求型学習をどう進めるか(共著)」「総合的な学習に役立つ劇の本(共著)」「全員参加の楽しい学級劇・学年劇脚本集(共編)」「みんなが活躍できる劇の本(共編)」他、多数。

コミュニケーション能力ってなに?

「コミュニケーション能力を育てる」という研究テーマで校内研究を進めている小学校が、最近、増えています。今日の子どもたちをめぐる諸問題の多くが、子どもたちの(あるいは、その周囲の大人たちの)コミュニケーション能力の欠如から引き起こされているという認識が強いからでしょう。私自身も、この半年の間に三つの学校の研究会で、お話ししたり、ワークショップを実施したりしています。

そもそも、コミュニケーション能力とは、どのような能力を示すのでしょうか。「聞くこと、話すこと、話すこと」の能力、「人の気持ちを押し量る能力」「話し合つて問題を解決する能力」「伝えるために表現を工夫する能力」などなどが挙げられるのでしょうか。

学校教育の中で求められるコミュニケーション能力とは、子どもたちが、社会的により良く生き抜くための、根源的な能力であることは間違いありません。

「ドラマ教育」と劇指導とは違う

私が、子どもたちのコミュニケーション能力を高めるために実践し、研究しているのが「ドラマ教育」です。ここでいう「ドラマ」とは、教室で行う小さなゲームから、あるまとまった状況を演じる活動まで、子どもたちが身体表現、音声言語表現を駆使して取り組む活動の総称を意味します。さまざまなアクティビティがあり、1～2分で終わるものから、十時間位かかるものまであります。ドラマの語源はギリシア語のDRAN、英語のDOと同義です。先ず、自らの心身を解放し、動き出すことが大切です。そして設定されたさまざまなルールやストーリーの中で自分と友だちを擦り合わせていく、その過程を通じて子どもたちは多くのことを獲得し、変わっていきます。

子どもたちはこの「ドラマ」の活動を、学校生活のさまざまな場で体験することができま。それは朝の会であったり、国語や社会科、総合的な学習などの学習の場であったり、道徳の指



身体を使って表現する



ドラマ教育の様子

導の時間であったり、学級活動の時間であったりします。ですから、行事などの場に限定されて行われる「劇指導」とは違うものなのです。劇指導の教育は、ドラマ教育と区別して「シアター教育(上演を目的とした演劇教育)」と呼ばれています。

ドラマ教育でコミュニケーション力を!

ドラマの活動の最大の魅力は、無条件に楽しいことです。だから、子どもたちも大好きです。いつも楽しさに支えられながら、劇的な状況やストーリーの中で、自分以外のいろいろなものに変身したり、未経験の状況を疑似体験することが出来ます。子どもたちは自他を擦り合わせ、周囲とコミュニケーションをとりながら表現力、自己コントロール力、状況判断力、問題解決力などを獲得していきます。

限られた紙面で、その具体的な展開をご紹介できないのが残念ですが、私にとってドラマ教育は、学級経営そのものであり、教科指導の重要なツールです。

毎日出会う子どもたちが、自分を大切に、友だちを尊重し、触れ合う喜び、伝え合う喜びに満ち溢れ、しっかりと友だちと繋がりが日々を楽しく、伸び伸びと生きていってくれること、それが、私の願いです。ドラマ教育がそのための有効な方法であることを信じて、実践を重ねている毎日です。



子どもたちも大好きな「ドラマ」の活動



成蹊実務学校の教育システムには、中村春一の強い意思が込められていました。

成蹊教育の樹立と、その特色

成蹊実務学校の特色

開校式の十日前に校舎が全焼するという苦難を乗り越えて、一九二二（明治四十五年）四月二日、成蹊実務学校が開校した。各種学校としての船出であったが、これは中学校令や商業学校令に縛られず、自由な立場で独自の教育を実践したいという中村春一の強い意思のあらわれだった。

そのため、実務学校という名称はついていたものの、一般的な実務・技能教育とは大きく異なる教育が展開されていた。中村が実務学校において実践した新教育は、欧米流の教育小説・新教育思想の模倣や追従ではなく、彼独自の構想によるものであり、その立場は、独自の教育的理想像をあくまで日本の土壌の上に培おうと試みたものだった。

学生塾「成蹊園」以来の伝統である家族的、私塾的形態をとり、生徒は主として中流以下の子弟を対象とした。無月謝、全寮制で、恵まれない境遇の子弟に進学の道を開き、英才教育を施すことによつて、埋もれた大衆の中から有為な人材を発掘しようとしたのである。

成蹊実務学校が目標としたのは、堅固な品性を持ち、社会の中流に立つて諸般の実業に貢献できる運動組織に成長した。この「新教育運動」は、大正期に巻き起こった教育方法改革論とはやや質の異なるものであるが、「大正期自由教育運動」の導火線となったことは間違いない。

こうして成蹊実務学校の教育は社会の注目を浴び、入学志望者も殺到した。けれども、教育の特色である少数定員制を堅持するため、毎年の入学者は二十五名以内に厳しく制限されていた。入学を許可された生徒たちは少人数であるとはいえ意気軒昂たる希望と理想に燃えており、他の公私立学校には見られない充実感があふれていた。

しかしながら、成蹊実務学校は中学校令に基づく学校ではないため、高等学校、大学への進学が難しいという課題が残されていた。既存の学校制度の枠に縛られることなく、自由な立場で独自の教育を実践してきた中村であったが、実務学校に当って当時の学校令のもとにおいても、成蹊教育の理想を実現しようと決意した。こうして、一九二四（大正三）年の成蹊中学校を皮切りに、小学校、実業専門学校、女学校が次々と創設されていくのである。

● 次回のテーマは「池袋の各校の誕生」です。
（企画・監修 創立一〇〇周年記念行事推進室）



成蹊教育の機関誌「新教育」



成蹊実務学校の外観

務に当り、能く国家の中堅となり、国力の充実をはかるべき覚悟と実力を有する人物の育成である。内実のともなわない「學歷」ではなく、真の「学力」を有する「信頼される人間」の養成をめざしたのである。さらに、「画」教育を排し、人間個性の教育、特に個性の発見伸長による英才教育をうたっていた。また、教師と生徒の情誼の發揮、品性の陶冶などの具体的教育目標も打ち出された。

こうして開校した成蹊実務学校では、「新教育」の旗印のもと、独自の新しい教育システムが次々に導入されていった。

学科課程で重点を置いたのは、英語、数学、国語、理科などの一般教科で、珠算や簿記などの実務科目と比べて二〜三倍の授業時間が割り当てられていた。この点からも実業教育を主体とする実務学校とは二線を画していたことが分かる。中村は、日本の文化的水準をより向上させるためには、欧米近代思想の吸収が不可欠と確信し、各学年とも英語に最多の時間を割り当てた。卒業までに英字新聞や原書を読めるようになることが目標で、実際、当時の生徒たちは古典英語によるシエクスピアをも読破していたという。また、理科系学科は教科書に依らず、野外の観察実験が中心だった。

た。こうした教育法は、それまでの公教育とは本質的に異なるものであった。

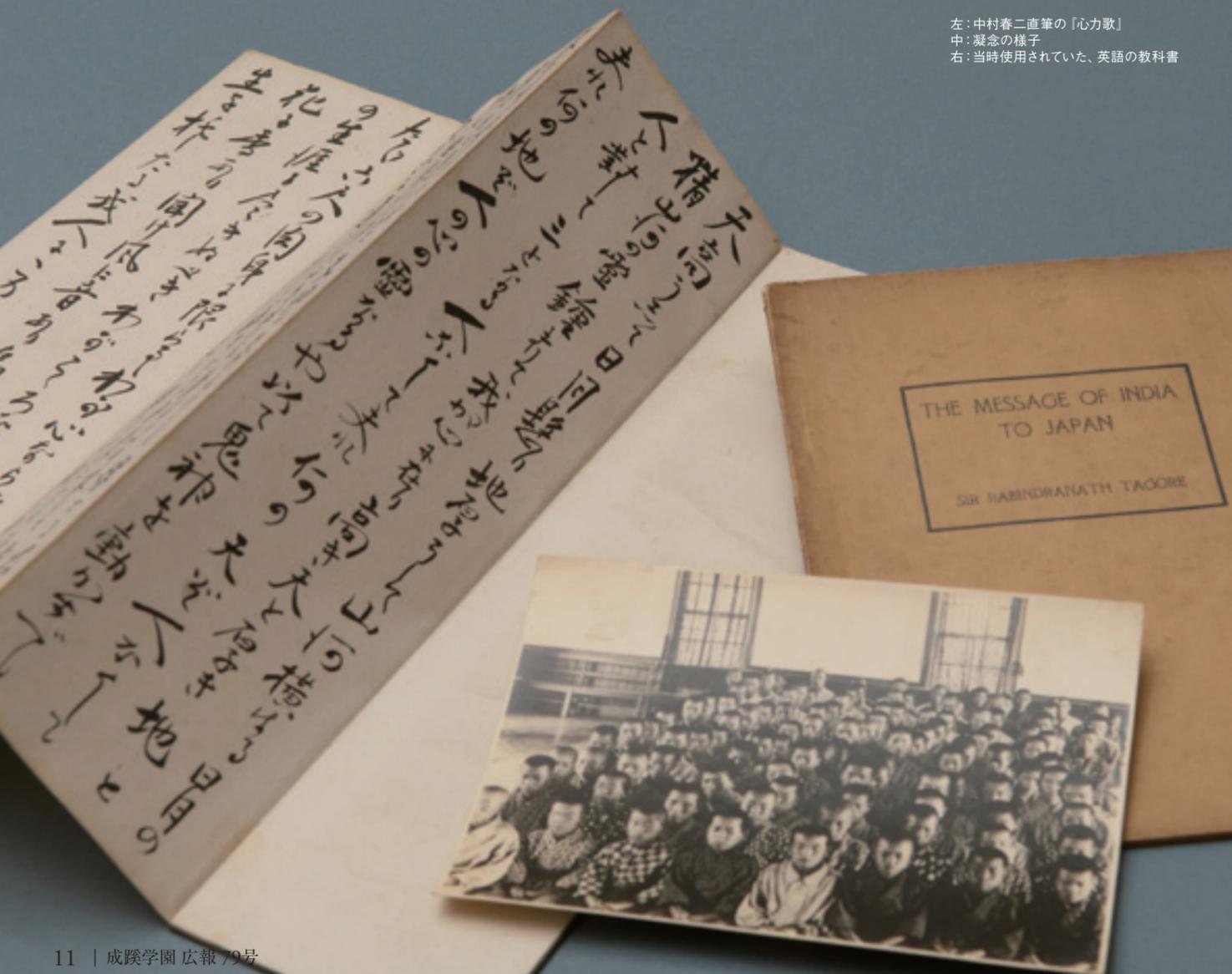
さらに、大きな特色といえるのが独特の鍛錬主義教育である。凝念や心力歌の唱和に象徴される精神修養、気力の養成などの克己主義、劇しい労働作業、断食・徹夜や寒中水泳といった実地訓練などが徹底的に行われた。その目的は「気力の涵養」と「正直な人間の育成」であった。利己的な立身出世主義を否定する中村は、偽善や狡猾を排し、縁の下の力持ちとして、真に社会を支える人間の育成をめざしたのである。

成蹊実務学校は厳しい勉学、鍛錬の場であった反面、少数定員制（学級定員二十五名以内）が醸し出す家庭的雰囲気、満ち、教師と生徒の間には親愛和楽の風があった。中村は、教育の徹底を図るためには、教師と生徒は常に共にあり、相互の精神が共鳴し、真に融合一致しなければならぬと説き、労働作業や鍛錬でも、教師は常に生徒と一緒だった。中村自身も先頭に立ち、率先躬行を実行した。教師が生徒一人ひとりの性格をよく理解することなしに、個性重視の教育は、大きな効果をあげられないと考えていたからである。

「新教育運動」の推進

成蹊実務学校の個性重視の教育は、教育界に新風を吹き込むものとして、次第に有識者や教育関係者の注目を集め、日本全国から参観者が訪れるようになった。そうした気運を受けて、一九二五（大正四）

左：中村春二直筆の「心力歌」
中：凝念の様子
右：当時使用されていた、英語の教科書



少人数教育と開放感あふれる新校舎で
「自立・連帯・創造」の力を育む

成蹊小学校

成蹊小学校では、二十八人・四学級制の少人数教育を採用、一人ひとりの個性を伸ばすきめ細かい教育を実践しています。二〇〇八年には明るく開放的な新校舎が完成し、教育環境が一層充実しました。



より密度の濃い教育の実践が 新校舎建設の目的

新校舎に足を踏み入れると、子どもたちがウッドデッキテラスやワークスペースで歓声を上げている姿に出会いました。二〇〇八年七月の完成から二年が経ち、新校舎は子どもたちの学校生活のステージとして、すっかり定着しています。

この新校舎建設の経緯について、金納善明校長は次のように話しています。

「成蹊小学校では、創立者がめざした『個性尊重の少人数教育』を現代においても実現するため、一学年を三学級から四学級に増やしました。これにより、一クラスの人数を約十人減らすことができましたのです。小規模な学級のなかで、より密度の濃い教育を行う場を提供することが、今回の小学校の新校舎建設の目的です。」

続けて金納校長は、「本校では、『ゆとりある学校生活のなかで子どもたちの個性を育てる』ことを教育目標としています。それならば、教育の場となる校舎も個人的でありたい。成蹊小学校の教育理念で



▲歌いながら体を動かし、五感すべてを使って学ぶ、英語の授業の様子

新校舎で育まれる 子どもたちの個性

これらの共有スペースは、学びの可能性も大きく広がりました。

「ワークスペースは、広さを必要とする授業や学年全体で取り組む行事の準備作業を行うのに最適です。パソコンも設置されているので、すぐに調べることができるようになりました。」(宮下教諭)

「教科の領域を超えた学習を行う『こみち』の授業では、収穫した野菜や果物をすぐにテラスに持ち込んでスケッチしています。低学年のテラスは地面とフラットで、土の延長上で学習が行えます。子どもたちは土に触れ、土に親しむという、人間が生きていく上での基本を学び、生きる力を身につけていくのです」(佐藤教諭)

「教室の中だけでなく、すべての場が学習の場である」というのは、成蹊教育の基本理念の一つですが、両先生の話を聞いてみると、共有スペースは、まさにそれを体現する場となっているといえるでしょう。



▲「連帯する力」は友人との遊びからも養われる

明るく開放的な空間で 子どもたちがゆとりを持って生活

新校舎には、ほかにもさまざまな工夫が施されています。

「ゆとりある空間」は、文化祭の展示場やPTAの会合場所、そして子どもたちの遊び場と、幅広く利用されています。「吹き抜けなので圧迫感がなくてよいと、来校した方の評判も上々です」(金納校長)。

図書室は約三万冊が収容可能な本棚を備え、その広さはちよつとした大学の図書館並み。一階のソファアールでは、ガラスを通して降り注ぐ陽光の下、ゆったりと読書を楽しむことができます。

「明るく広々とした開放的な校舎で毎日過ごすことで、子どもたちの生活にゆとりが生まれます。また教師の目が届きやすく、安心して子どもたちを遊ばせられるのがよいですね」と佐藤教諭は語っています。



▲読書に親しむ環境が整えられた図書室

子ども一人ひとりに より行き届いた指導が可能に

前述の金納校長の話にもある通り、成



▲心の交流を通して、綿密な指導が可能になる

蹊小学校では二〇〇八年から一クラス二十八人・四学級の少人数学級体制となりました。一クラスの子どもの数が少なくなったこと最大のメリットについて、金納校長をはじめ、佐藤教諭や宮下教諭は「一人ひとりに目が行き届くようになり、密度の濃い血の通った指導ができるようになった」と異口同音に話しています。

「授業はもちろん、休み時間も含めて、子どもと関わる時間が増え、子ども一人ひとりの考えや行動が把握できるようになったことが一番ですね。学習が遅れている子、特定教科が苦手な子などに綿密な指導ができるようになりました」(宮下教諭)。

成蹊小学校では、子どもたちの書く日記を通して、自分の考えを表現できる力を伸ばすとともに、子どもと教員との密接なコミュニケーションを図る、独自の「日記指導」が伝統的に受け継がれています。「日記指導も、一人ひとりの日記にじっくり目を通すことができるようになり、よりきめ細かい指導ができ、子どもたちとの心の交流をさらに深められるようになりました」(佐藤教諭)。

*なお、四・六年生は一クラス三十二人になります。

少人数学級制導入を機に 教員の意識改革も進む

少人数学級制の持つメリットをより生かした教育を行うためには、全教員

ある「自立・連帯・創造」を具現化する場でありたい。こうした考えを基本に新校舎をプランニングしていったのです」と語っています。

一クラスの人数を減らすことに伴い、教室の面積は若干小さくなりましたが、そのぶん、ウッドデッキテラスやワークスペースといった共有スペースが充実しました。どちらにも仕切りがないので、クラスの枠を超えた交流が生まれています。「ワークスペースで一緒に文化祭の展示の準備をしたり、テラスで縄跳びをしたりすることで、同じ学年という連帯感が生まれやすくなりました。こう語るのは五年生を受け持つ宮下浩教諭。二年生担任の佐藤正信教諭も「クラスや学年を越えた交流の場ができたことは、子どもたちの成長にとって非常に有意義ですね」と話しています。



▲本館外観。仕切りのない広々としたウッドデッキテラス

が成蹊のめざす教育を理解し、教育理念を共有することが重要です。「そのため、新任教員には年間プログラムを組んで指導するとともに、学校全体で校内研究会という機会を設け、ベテラン教員を含めて、常に成蹊はどういう教育をめざすべきか、今後どのような教育プログラムを展開していくべきかといったことを常に検討しています」(金納校長)。

さらに、「教師は、人間性と専門性を兼ね備えている必要があると常に考えています。ここでいう専門性とは、国語や算数などの教科の専門性に加えて、子どもや保護者に信頼される教師であること、すなわち人間性に裏打ちされた専門性を指します。これからは成蹊が発展していくためには、このような教師を育成し続けることも不可欠だと思っています」と述べています。

金納校長は最後にこう抱負を語っています。「少人数学級制に対する専任教員の組織もようやく固まり、新校舎での学習も軌道に乗ってきました。こうして成蹊教育をより充実させる体制が整ったところで、二〇一五年の小学校創立一〇〇周年に向けてさらにステップアップしていくには、『伝統に立脚して未来を考えよ』という創立者の言葉を噛み締め、『自立・連帯・創造』という本校の教育理念を再認識する必要があります。それを土台に、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばす教育体制を構築していかなければならないと身を引き締めています」。

(企画・監修 創立一〇〇周年記念行事推進室)

この方々に インタビューしました



金納善明 校長



佐藤正信 教諭



宮下浩 教諭

大学の近況



成蹊レガッタが開催されました

六月二十四日、戸田オリピックボートコースを会場に成蹊レガッタが開催されました。昭和四十四年に第一回大会が行われてから、今回で四十二回目となる今大会は、天候にも恵まれ、体育会の学生はもとより、普段スポーツに接する機会のない学生・教職員らも、みな熱戦を繰り広げていました。



論家であり、本学で非常勤講師を務める小野俊太郎氏を講師にお迎えし、講演が行われました。翌週の二十五日は「成蹊学園創立一〇〇周年記念事業 英国ケンブリッジ大学ペンブルック劇団公演」から騒ぎ「Much About Nothing」が開催され、当日は会場が満員となるほど大勢の方にお越しいただきました。ペンブルック劇団は出身者にハリウッド俳優もいるという本格的な学生劇団で、客席では本場のシェイクスピア劇を堪能できたことに賞賛の声があがっていました。



平成二十二年 新司法試験 本学から十一名が合格

九月九日、法務省より第五回「新司法試験」の結果が公表されました。

経済学部	5名
文学部	8名
法学部	5名

二〇一〇年度 学位授与式

二〇一〇年度学位授与式（九月卒業）が九月二十五日、本館大講堂で行われました。十二名が出席し、和やかに式が進められました。工学論文博士一名と、卒業生十八名の計十九名に学位記が授与されました。学部卒業生数の内訳は左記のとおりです。



合格者の声

成蹊大学法科大学院
2008年度入学
法学既修者

板野 祥典さん

少人数制の利点を 最大限に活かした教育と、温かい学習環境

私が本学法科大学院を志望した理由は、社会人から新卒者まで多様な背景をもった学生が集まっていること、定評ある教科書に基づいた少人数制教育が充実していること、の2点です。

本学では、大半の授業がソクラテス・メソッドを採用しております。学生は、事前に配付された事例と設問を予習した上で、授業に出席することを求められますが、授業においては、ただ設問に解答するのみでは足りません。解答に至った理由、自己の見解に対する反論への対応、関連問題など、先生から矢継ぎ早に追及されることになります。このような授業を通じて、自ら事案を分析する姿勢、争点を発見する能力、妥当な解決を導こうとする心構えを養うことができました。

今年実施された第5回新司法試験は、全国の受験生にとって厳しい結果となりました。そのなかで幸運にも合格することができたのは、熱意をもってご指導くださった先生方、快適に学習できるよう温かくサポートしてくださった事務室の方々、同じ目標に向かって切磋琢磨してきた学友達のおかげです。皆さま方により御礼申し上げます。

本学より授かった貴重な財産を公益のために役立てられるような法曹を目指して、研鑽を積みたくと考えております。

本学法務研究科（法科大学院）より九十三名が同試験を受験し、その結果、短答式試験の合格に必要な成績を得たのは五十六名、論述式試験を経て最終的に合格されたのは十一名（内訳：既修八名、未修三名）でした。合格された方には心からお祝い申し上げます。なお、法務省の発表によると、全国での総受験者数は八百六十三名、最終合格者は二千七十四名となっています。

オープンキャンパスが行われました

オープンキャンパスが七月三十一日・八月一日、十月三日に開催され、学科別の体験講義やガイダンス、入試相談会や在学生によるキャンパス見学ツアーといった多くのイベントが行われました。

成蹊会振興助成金（スポーツ・文化）贈呈式が行われました

大学の体育会と文化会に所属する在学生の活躍を期待し、成蹊会（卒業生団体）から毎年

「スポーツ振興助成金」と「文化振興助成金」を贈呈しています。

本年度の贈呈式は六月二十八日学園史料館二階研修室で行われ、十団体（後述）に対し「スポーツ振興助成金」が成蹊会スポーツ振興委員会の力石浩委員長（法三回卒）より手渡されました。力石委員長からは、母校のクラブ活動に対する卒業生の熱い期待が伝えられるとともに、四大学運動競技大会での活躍を祈念した激励もありました。また、「文化振興助成金」も三団体（後述）に贈呈されています。

成蹊会では、卒業生からの会費収入を原資として母校支援のための各種活動（育英奨学、学術・教育助成、スポーツ振興、国際交流、文化振興の各事業）を行っており、この助成もその一環として行われたものです。



◆スポーツ振興助成金（総額七十五万円）
剣道部／ラクロス部女子／ラグビーフットボール部／応援指導部／水泳部／蹴球部／アメリカンフットボール部／軟式野球部／ライフェーシング部／ソフトボール部

◆体育会イベント助成（総額十五万円）
学内陸上／レガッタ

◆文化振興助成金（総額三十五万円）
文化会本部／櫻祭本部／新聞会

成蹊大学シェイクスピア・ウィーク開催

九月十八日から二十五日までの二週にわたり、「成蹊大学シェイクスピア・ウィーク」と題して、シェイクスピアをテーマとしたイベントを行いました。

十八日は「清水護英語教育助成資金講演会 シェイクスピア喜劇の愉しみ方」と題し、文芸評

吉祥寺ふれあい夏まつりに 本学学生が参加しました

今年で三十六回目を迎える「吉祥寺ふれあい夏まつり」が、七月二十二日・二十三日の二日間に行われ、東急百貨店吉祥寺店北側と西側広場で開催されました。今年も、成蹊大学ボランティア本部「Uni」と「成蹊フェアレンズ」の有志による学生が、成蹊学園創立一〇〇周年記念事業の学生企画として実行委員会に参加し、「フェアトレードコーヒー」やクッキーなどの販売や、成蹊学園創立一〇〇周年の告知活動に携わりました。この企画で得られた収益金は、フェアトレードの普及および地域交流を目的としたJICAアフリカ支援基金に寄付されることになっています。



ドラマ「美丘―君がいた日々―」が 本学で撮影されました



日本テレビ系列にて、7月より9月まで放送のドラマ「美丘―君がいた日々―」の撮影が、本学にて行われました。本学でのロケは、前半での美丘らの学生生活のシーンが中心となり、本館や3号館などが撮影に使用されました。原作は成蹊大学出身の石田衣良氏で、主演の美丘役に吉高由里子さん、太一役に林遣都さんのほか、勝地涼さん、寺脇康文さん、谷原章介さん、真矢みきさんが出演しました。

卒業生の皆さまへ 大学入試願書無料配付のお知らせ

書店等で販売中の2011(平成23)年度成蹊大学一般入学試験要項(願書)を、卒業生に無料で送りいたします。下記の方法でお申込ください。

1 願書請求方法：電話、FAX、メールまたは郵便にて
①氏名 ②住所* ③電話番号 ④最終卒業校(大学は学部)
⑤卒業年 ⑥必要部数 を成蹊会までご連絡ください。
※1 郵送先は成蹊会登録の住所となります。

TEL：0422-51-2244 FAX：0422-54-6766
e-mail：seikeikai@jim.seikei.ac.jp
社団法人成蹊会 大学入試願書無料送付係 宛
<申込先>

2 受付期限：2011年1月17日(月)
3 お問い合わせ先：成蹊大学入試センター 電話：0422-37-3533

2010年度後期公開講座 「むさしの 一昨日・今日・明日」

第1回 10月30日(土)	「ジャズと春樹と武蔵野と」 宮脇 俊文(経済学部教授)
第2回 11月27日(土)	「武蔵野の演劇文化」 箕島 裕二氏(前吉祥寺シアター支配人/現・まつもと市民芸術館プロデューサー兼支配人) 聞き手：日比野 啓(文学部准教授)
第3回 12月4日(土)	「地図で読む武蔵野」 小田 宏信(経済学部教授)
第4回 12月11日(土)	「歴史から見た武蔵野」 光田 剛(法学部教授)
第5回 12月18日(土)	パネルディスカッション 「生まれ変わる吉祥寺と武蔵野の明日」 大橋 一範氏(週刊さちじょう編集長) 本田 拓夫氏(吉祥寺活性化協議会会長) 郡 護氏(前吉祥寺まちづくり事務所所長/現・武蔵野市企画政策室企画調整課課長) 司会：見城 武秀(文学部准教授)

会場：成蹊大学8号館101室(各日共通)
時間：13時30分～15時30分(各日共通)
受講料：無料(申込不要)
どなたでもご参加いただけます。講演は各回ごとに完結しますので、ご希望の回だけの受講も可能です。
お問い合わせ先：成蹊大学 企画運営課
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話：0422-37-3535 FAX：0422-37-3883
URL：http://www.seikei.ac.jp/university/

中学・高等学校の近況

中学校 夏の学校

七月十二日から三泊四日の日程で中学一、二年生の夏の学校が実施されました。一年生は霧ヶ峰の車山高原で実施しました。二日目には宿でうどん打ちを行いました。作ったうどんをカレー、けんちゃん、味噌の汁と一緒に大変美味しく食べることができました。三日目は小雨のため予定した八島ヶ原湿原での自然観察をホテル周辺の自然観察に変更して行いました。ここでは高校生やOBのヘルパーが説明しながらクイズを出題し生徒の観察の手助けをしていました。午後は立岩和紙の里へ出かけて紙漉体験、各自がオリジナルうちわを製作しました。夜は体育館でのイベントが行われました。御諏訪太鼓のダイナミックな響きに続き、クラスごとに学校生活を織り込んだ「夏祭り」の替え歌を披露。ヘルパーたちのダンス、教員によるリコーダー合奏などで盛り上がった後、灯りが消されキャンドルサービスでイベントを閉じました。最終日は雨がやみ、屋外で閉校式を行いました。お世話になった方々にお礼を言って、バスで学校へ向かい午後三時過ぎに到着、解散しました。



成蹊・カウラ交流四十周年行事

一九七〇年に始まったカウラ留学が四十周年を迎え、カウラ、東京それぞれで記念行事が行われました。カウラはシドニーから西へ約三百キロメートルの地方都市で、第二次世界大戦中捕虜収容所から日本人捕虜が脱走を試み、日豪で多数の死傷者を出したカウラ事件の舞台となりました。日豪友好を目的として交流が始められてから四十年、成蹊、カウラ両校からは毎年留学生交換が行われ、交流参加者は八十名を超えます。

八月に両角校長がカウラ高校を訪問し当地での記念行事に参加し歓迎を受けました。十月にはカウラから交換留学委員会グリフィス委員長ご夫妻、カウラ高校留学担当スミス先生ご夫妻をお迎えし、中学二年生を中心とした学校で



も大広間でのイベントに変更となり、熱気溢れるイベントが実行されました。最終日は雨も上がり、お世話になった方々に別れを告げ、帰路につきました。途中、ブルーベリー狩りを体験。バック一杯のお土産を持って午後四時過ぎに学校に到着しました。

秋の諸行事

九月十四日、十五日の両日、高等学校体育大会が開催されました。また、九月十五日には中学体育祭も同時開催されました。高校の体育大会は球技によるクラス対抗の形をとって実施されています。両日もまずまずの天候に恵まれ、クラス対抗でバレーボール、バスケットボール、卓球、フットサル、サッカー、ソフトボール、ドッジボールの各競技が大学の施設を含め校内のさまざまな場所で行われました。また、今年新しい試みとして、すべての球技が終わったあと全員がけやきグラウンドに集合し、学年別クラス対抗リレーを行いました。



中学体育祭では、大玉転がし、二人三脚、障害物競走、騎馬戦、リレーなどの種目が行われました。昼休み後に行われた恒例の応援合戦では、一年生から三年生までの縦の同一クラスが一丸となり、事前練習の成果を発揮しました。どのクラスの応援も非常に工夫が凝らされており、審査にあたった校長をはじめとする教員たちは採点に大変苦労していました。

今年猛暑が続く、体育行事の実施にあたっては熱中症が心配されましたが、九月半ばになって気温も下がり、快適な状況のもとで行事を実施することができ胸をなで下ろしました。

の歓迎行事、夜は交流参加者、ホストファミリー経験者、学校関係者など百五十名ほどが集まって記念レセプションが開催され、両校の関係をなお一層発展させることを誓い合いました。

国際交流関係行事としては、このほか交流六十周年を記念しての両角校長のセントポールズ校訪問、高校生のケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ短期留学などが実施されました。

生徒レポート

武蔵野市の環境活動に参加した高等学校生徒会長桑祐子さんの報告を紹介します。

七月、高等学校生徒会環境担当と蹊祭実行委員会環境パートの委員計六名で、武蔵野市の「高校生ごみ意識ミーティング」に参加しました。市内の各高校から二十名ほどが参加しました。

今回のミーティングは、他校生とのグループで環境美化に対する考えや、普段から自分が行っている環境活動を紹介し、意見交換し、より広い視野で環境美化について考えようというものでした。はじめは、「ごみ」から連想される言葉を、二分間、思いつく限り書く」という作業でした。書き上げた後、連想した言葉を紹

十月二日、三日の両日、中高の文化祭（蹊祭）が開催されました。中高の各HR棟では、文化部の展示や学年展、チャリティーバザーなどが行われました。また、高校中庭に設けられた緑日会場では、各団体が工夫を凝らした焼き鳥、団子、かき氷などが売られていました。中高とも体育館に設けたイベントステージでは、クラスやクラブ有志などがダンスや演奏を披露し、中学生徒ホールでは音楽の発表も行われました。大教室では、中高ウインドオーケストラ、ストリングス部の演奏、ダンス部、演劇部などの公演で日頃の成果が発表されました。

高等学校学習旅行

この夏休み中に国内五コース、海外三コースの計八コースの学習旅行が実施され、それぞれの目的を達成することができました。ここでは、今年の新コース「ベトナムの極意」をご紹介します。ベトナムは今やアジア観光の目玉的存在になっていますが、三十五年ほど前まで悲惨な戦場となっていました。今回の学習旅行ではベトナムの今と昔を学ぶことをテーマに据えました。二日目には地元高校との学校交流、午後にはホーチミン市内の見学と、今のベトナムに触れ、三日目にはトゥズ病院を訪問し、米軍が散布した枯れ葉剤による後遺症に苦しみ、大手術で全快後ここで働くドックさんの講演を聞き、午後はかつての南ベトナム解放民族戦線の拠点クチで米軍の攻撃に対抗して掘られたクチトンネルを見学、ベトナム戦争の悲惨さと民族自立の力を学びました。また、美しさで知られるメコン川クルーズを行うなど多彩な内容でした。このように学習旅行は、学習の要素と楽しさを組み合わせ、合わせて高校二年希望者を対象に行われています。



介し合ったのですが、自分では思いつかなかった言葉や、逆に同じ言葉でも問題意識の発想が違うものに触れ、良い刺激になりました。

私たちは、日々何らかの形で「ごみ」を出しています。どのようにすれば「出さなくて済むごみ」を減らすことが出来るか、デイスカッションの結果、方向性が見えてきました。レジ袋の代わりにマイ・バッグを使う、ちり紙ではなく布巾で拭きとるなど、「物を大切に使う」という当たり前の姿勢を当たり前に行うことです。また、「レジ袋が有料だからマイ・バッグ持参」ではなく、自ら進んで環境の為に何かをしていく、という姿勢の大切さを再認識しました。

このミーティングで各校の考えや意気込みを聞き、とても感動しました。どの参加者も意欲的に、楽しみながら考え、アイデアを出し合っている姿がとても印象的でした。また、一人では良い案が思いつかなくても、皆で話し合えば何か見つかることを改めて感じました。

私たちの学校生活は、学校の環境や、武蔵野市、地域の皆さんとも関係しています。これからも生活していくこの素晴らしい環境のために、私たちは一体何が出来るでしょうか。生活する上で身近な存在である「ごみ」と、どう付き合っていくかを考える、とてもよい機会になりました。



運動部・文化部の活躍

● 中学剣道部

東京都中学校総合体育大会剣道大会
女子個人 岡崎佳奈子 出場
女子団体 出場

● 中学硬式庭球部

〈男子団体〉
東京都中学校テニス選手権大会 ベスト4
関東中学校テニス選手権大会 第7位
全国中学校テニス選手権大会 ベスト16

〈男子個人〉

東京都中学校テニス選手権大会
ダブルス 田村亮祐・松尾俊 ベスト16

〈女子団体〉

東京都中学校テニス選手権大会 準優勝
関東中学校テニス選手権大会 第5位
全国中学校テニス選手権大会 第3位

● 高校水泳部

〈男子競泳〉
東京都高等学校選手権水泳競技大会
50m 自由形 武藤暉昇 決勝4位
関東高等学校水泳競技大会
50m 自由形 武藤暉昇 予選19位
(全国大会標準記録突破)
全国高等学校総合体育大会(美ら島沖縄総体2010)
50m 自由形 武藤暉昇 出場
第65回国民体育大会(ゆめ半島千葉国体2010)
少年B 50m 自由形 武藤暉昇 予選9位
少年B 400m リレー 武藤暉昇(東京代表チーム) 決勝5位

〈男子水球〉

東京都高等学校選手権水球リーグ戦 第4位
関東高等学校水泳競技大会 出場

● 高校馬術部

第44回全日本高等学校馬術競技大会 出場

● 中学演劇部

東京都私立中学演劇発表会 特別賞

● 全国高総文祭みやざき2010

囲碁部門 団体戦
東京都代表 筒井桃子(成蹊高校)、岡幸四郎(筑波大学附属駒場高校)、姚太樹(聖徳学園高校)が全国優勝・文部科学大臣賞を受賞

小学校の近況

伝統の行事教育「夏の学校」



「横のし」の練習

六月に行われた二年・四年の夏の学校に続いて、七月には一年(箱根)・三年(箱根)・五年(磐梯高原)・六年(岩井海岸)の夏の学校を、元気にそして安全に実施することができました。

今年梅雨明けが早く、厳しい暑さに見舞われた夏の学校でしたが、いずれの学年でも、登山や遠泳などの鍛錬体験を通して子どもたちの自立・連帯、さらには新しい自分の創造を確かめることができた夏の学校でした。左に、六年生の夏の学校の作文を紹介します。

「夏の学校 岩井の海」

初めて岩井の海を見た時、不安が一気に広がりました。私がダイビングをしたことがある海とは違って、あまり泳ぎやすそうではありません。冷たいし、波もすごいし、汚れているので、学校で特別練習を何回か受けて、少し自信がついていたのですが、実際に海を見ると心がしぼんでしまいました。

さっそく海での訓練が始まりました。訓練では「点呼」や、波があまりかからない泳ぎ方や遠泳のコツなどを教えていただいたりしながら海に慣れていきました。そうしているうちに少しずつ遠泳への勇氣と自信が湧いてきました。私が遠泳に生かした泳ぎは、二つあります。その二つは、二日目に習ったので、何度もその後練習しました。

まず一つ目が、横のしです。これは、顔上げ平泳ぎの「のび」につながりました。横のしは、師範に教えていただきました。はじめは、陸で

山をつくって練習をしました。みんなが浜で寝ころがって練習をしている姿は、どうしても陸にあがった魚を思い浮かべてしまい、何だか恥ずかしながらの練習でした。浜では上手にできていたのに、海に入ると、意外と難しく手と足がバラバラになってしまい大変でした。しかし、師範のアドバイスの「肩こしに景色を見る」という言葉で少しずつコツをつかみ、次の日は、ほめられるほどになりました。陸にあがった魚が、海にもどれてうれしくてスイスイ泳ぐ感じですが(それほど上手ではありません)。

そして、二つ目は、顔上げクローリングです。これは、顔上げ平泳ぎの「前の人を見失わない」ということにつながりました。顔上げクローリングは、意外と簡単でしたが、ちゃんと伸びてかき、顔を左右にゆらさないことが大変でした。師範はずいずいです。たくさんの「安心」をいただきました。

遠泳のとき、私は一本目でした。「何とか完泳したい。」それだけを思っていました。出発前に、母が、「完泳するのが目標だけど、泳いでいる時、どれだけの人が助けてもらっているか、周りを見てこらん。それが分かったら完泳。」と、よく言っていました。その時の私は、そんなことは考えられませんでした。前しか見えませんでした。もう海がこわいとも思いませんでした。

あつという間の一時間半、二千メートルでした。浜に上がって、みんなに迎えられる喜びがじわじわとわいてきました。

私たちはそれぞれの技能を高めたり、体験や知識を深めたりする意義深い合宿教室となりました。

- 家庭(津久井) 7月29日から二泊三日
- 科学(南小谷) 8月2日から四泊五日
- バドミントン(北志賀) 8月23日から三泊四日
- バスケボール(校内) 7月26日から四泊五日
- 硬式テニス(軽井沢) 8月26日から四泊五日
- バレーボール(新鹿澤) 8月24日から四泊五日
- ラグビー(新鹿澤) 8月24日から四泊五日
- サッカー(小淵沢) 8月27日から四泊五日
- 野球(軽井沢) 8月24日から四泊五日
- プラスバンド(箱根) 8月29日から二泊三日
- 太鼓(東山梨) 8月23日から三泊四日
- 陸上運動(校内) 8月23日から通い五日
- 美術(津久井) 7月29日から二泊三日
- 卓球(校内) 8月29日から通い三日
- 創作(校内) 8月30日から通い二日

オーストラリア体験学習

夏休みの八月十九日から二十八日まで、六年生の希望者十六名(男子五名・女子十一名)が、オーストラリア体験学習に出かけました。これは、国際教育センターの成蹊学園創立一〇〇周年記念事業として実現したものです。

小学校では、国際教育センター開設当初から、国際理解教育の一環として、海外提携校での子どもたちの体験学習を構想してきました。昨年、具体的な提携校を候補に挙げて、小学校国際教育委員会のスタッフによる現地調査が行われました。



成田空港より出発



ホストファミリーと一緒に

オーストラリア体験学習日程

- 19日(木) 15時成蹊学園集合・成田空港発JAL21時10分
- 20日(金) ブリスベン空港着07時05分・オーストラリア動物園見学・15時カランドラ校着・ウエルカムパーティ(歌の歓迎・ホッジス理事長、メグソン小学校長との歓談)・ホストファミリー(8家庭)と対面・ホームステイ先へ移動
- 21日(土)～22日(日) 子どもたちは、それぞれのホストファミリーと終日過ごす
- 23日(月) カランドラ校でESLオリエンテーション・チャペルにて成蹊小学校DVD紹介・子どもたちのクラスパディと対面・授業参加・授業終了後に引率教員がホームステイ先を訪問
- 24日(火) 授業参加(子どもたちは3グループに分かれて、4年から6年の学級授業に参加)
- 25日(水) 授業参加(23日から、事前に準備した紙芝居をそれぞれの学級で発表)・パディとのスペシャルランチ
- 26日(木) 授業参加(午後スポーツ大会・バレーボールやバスケットボールに興じた)
- 27日(金) 全校集会(フェアウェルパーティで日本の歌やソーラン節のパフォーマンスを披露)・メグソン校長より修了証授与・ブリスベンに移動・市内散策・ホテルでの反省会
- 28日(土) 06時ホテル出発・ブリスベン空港発08時45分・成田空港着17時05分・成田で解散



アボリジニの絵画への彩色



パディの子どもたち



食べ物当てゲーム



パディの子どもたち

今回の体験学習は、その中からブリスベンの北部にある Caloundra Christian College (幼・小・中・高の学生約五百名・以下カランドラ校)での授業とホームステイを体験するものでした。十日間の子どもたちの日程は左記の通りです。



フェアウェルパーティでのソーラン節



スペシャルランチにて



修了証の授与



ホテルで学習のまとめ

カランドラ校での小学生の受け入れは初めてということでしたが、交流コーディネーターのスペンサー氏をはじめとしたカランドラ校スタッフの積極的な対応を実感することができ、今後の継続実施が大いに期待できる十日間となりました。



遠泳当日の朝礼



最後まで隊列をくずさずにゴール

夏の合宿教室(クラブ学習)

高学年の子どもたちのクラブ学習は、毎週金曜日の一時間が活動日です。そして夏休みには、それぞれのクラブが「合宿教室」を開設して日頃の学習をさらに充実させる機会を設けています。今年から新しく開設された「創作部」も含めて、すべてのクラブ学習が、左記のような日程で夏の合宿教室を実施しました。百十三年ぶりという記録的な暑さの中ではありましたが、子ども

準備してくださっているから。

母が、「身長が伸びた気がする。」

と言うので、計ると、四月よりも二・五cmも伸びていました。

きっと岩井の海で伸びたのだと思います。(六年女子)

今年の六年生にとって幸いなことに、気象条件も海の状態もすべて整っていったので、千メートルと二千メートルの遠泳を実施することができました。そして、作文に見られるような一人ひとりの子どもたちのがんばりもあって、参加者全員が見事に完泳することができました。今後小学校の行事教育の中心ともいえる夏の学校を、子どもたちの個性を大いに発揮させる教育機会として大切に行っていきたいと思っています。

第49回 欒祭 テーマ「Canvas」

11月20日(土)・21日(日) 開催!
時間:9:00~19:00



OPENING CEREMONY2010 ~色彩のはじまり~

【20日(土)】
10:00 ~ 本館前ステージにて
本企画ではサークル、部活の魅力をつたえた30分で知ることができます。さまざまな参加団体の方と共に欒祭のはじまりを盛り上げましょう!そして最初から最後まで欒祭を楽しみましょう!

Adventure Bingo

【20日(土)】
13:30 開場 14:00 開演
5号館 102室にて
毎年恒例のビンゴ大会、今年は「Adventure × BINGO」ということで、物語の世界を進んでいきます!!今年も10万円旅行券をはじめ、最新ゲーム機など豪華賞品が目白押し!!チケットの学内先行配布は11月10日(水)12:30~、当日先行配布は11月20日(土)12:00~を予定しています。さあ、みんなで冒険へ出かけましょう!!

あつまれ!! どうぶつの国

【20日(土)】
11:00~15:00 トラコンガーデン側前庭にて
成蹊大学のキャンパスに動物がやってくる!!動物と触れ合いながら、えさやりや写真撮影ができます!

お笑い shock

【21日(日)】
11:15 開場 12:00 開演 4号館にて
今年はお笑いライブ!!MCはザギンデシスルー!!チケットの学内先行配布は11月2日(火)12:30~、当日先行配布は11月21日(日)10:00~を予定しています。なお、チケットは入場無料・先着順指定席制。

この他にも、学生による展示・模擬店・ステージ発表、およびフリーマーケット等さまざまなブースを用意して皆さまのご来場をお待ちしております。

第3回オープンキャンパスを開催!

日程:2010年11月21日(日)
上記の第49回欒祭と同時開催
時間:10:00~16:30

受験生を対象に、多彩なプログラムを用意しています。教員やスタッフ、大学の先輩たちと直接触れあうなかで成蹊大学の魅力をぜひ感じてください。

お弁当をつくろう!! スタンブラリー

【20日(土)・21日(日)】
10:00~17:00(景品交換は18:00まで)
本館前テントにて
毎年恒例となりつつあるスタンブラリー企画!!今年はお弁当をテーマにお弁当のおかずを集めてもらいます。学内の展示を見て!!模擬店で食べて!!賞品をGETしよう!!

こどものくに ☆けやきんぐだむ☆

【20日(土)・21日(日)】
10:00~16:00 トラコンガーデン側前庭にて
今年の子ども向け企画は、ジェット飛行機作り・パラシュート作り・ボウリングゲーム・パラシュートゲーム・巨大お絵かきの5ブースを開催します。小さいお子様から小学生まで楽しめるよ!!家族揃って遊びに来てくださいね!

イルミネーション 2010

【21日(日)】
18:30
18:30頃に花火を打ち上げます!!観覧場所はアトリオです。ぜひ皆さん見に来てください。また、今年も情報図書館の階段を使って階段絵を設置します。その他にも学園を華やかに演出するので楽しみにしてください!!

お問い合わせ先

成蹊大学欒祭本部(委員長:久保田 展弘)
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
Tel:0422-51-6102
URL: http://www1.parkcity.ne.jp/f/keyaki/
e-mail: f_keyaki@hotmail.com

【プログラム】

- キャンパス見学ツアー
- 成蹊大学ガイダンス
- 各種相談コーナー
(入試、留学、学生生活などについて)
- 資料配布 など

お問い合わせ先

成蹊大学入試センター Tel:0422-37-3533

成蹊から
お伝えしたいこと

TOPICS 学園

成蹊小学校本館が二〇一〇年度
第五十一回建築業協会賞(BCS賞)に入選
BCS賞は、国内で竣工後一年以上経過した建築物を対象に、建築上のデザインの優秀さのみに留まらず、都市計画・地域環境作りへの貢献、施主および使用者の満足度、施工者の高い技術や創意工夫などが総合的に評価されるものです。「我が国における代表的な建築物」と位置づけられる賞であり、全ての関係者にとって非常に価値のある受賞となりました。

成蹊大学 地域懇談会開催報告

名古屋会場
【対象地域】
静岡県・愛知県・岐阜県・三重県
日程:2010年9月18日(土)
会場:名古屋 Marriott アソシアホテル
参加者数:57名

仙台会場
【対象地域】
青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
日程:2010年10月30日(土)
会場:ホテルJALシティ仙台
参加者数:54名

本学から離れた地域のご父母と大学の連携の場として、また大学の取組みについてご理解をいただく場として、学長を始め、各学部の教員、関係部署職員がご説明に向向く地域懇談会を開催しました。全体説明会の「成蹊大学現況報告」「就職状況説明」の後、懇談会では、学業や就職など個別の相談を行いながら、和やかな雰囲気の中卒業生を交え相互に交流を深め、盛況のうちに閉会となりました。

クローズアップ

音楽を統合のシンボルに

東アジアサミットで「ASEAN Symphony Orchestra」を指揮



ふくむらよしかず
福村芳一
1961年成蹊中学校卒業

才能あふれたアジアの若者が
脚光を浴びる場を開拓する、
それが私に与えられた使命。

今年十月二十八(三十日)、ヴェトナムのハノイで開催されたASEAN首脳会議、および東アジアサミットで、「ASEAN Symphony Orchestra」の演奏会が行われました。
このオーケストラのメンバーは、開催国のヴェトナムから約六十名のほか、ASEAN十カ国と日本、香港、台湾から数名ずつが選抜されており、国籍、人種の枠を超えた画期的な編成になっています。
指揮者を務めたのは福村芳一さん(一九六〇年成蹊中学校卒)。福村さんは、京都市交響楽団首席指揮者、NHK「世界の音楽」レギュラー指揮者などを経て、一九八〇年代から香港フィルハーモニー、上海交響楽団、ヴェトナム国立交響楽団などの指揮者を歴任。
「これまでのアジアの音楽界は、西洋コンプレックスが根強く、アジアの国のオーケストラであっても、演奏者は六割以上が欧米人で占められていました。その状況



を打開し、才能にあふれたアジアの若者が脚光を浴びる場を開拓することが、私に与えられた使命だと考えてがんばってきました(福村さん)。
その経験を通して、福村さんが抱くようになった夢が、アジアの諸国民だけで編成されるオーケストラの結成です。その構想に、「コミュニティーに根ざしたASEANづくり」を志向するスリンASEAN事務局長が共鳴。ASEAN援助に積極的な日本財団の賛同も得て、「ASEAN Symphony Orchestra」が組織されました。
「ASEAN十カ国は将来的な統合を目指すのですが、政治、経済、文化がそれぞれ異なり、簡単なことではありません。そこで重要になるのが、皆が思いを共有できる『統合のシンボル』を作ることです。それには音楽が最適です。サッカーなどのスポーツも候補かもしれませんが、試合には勝敗が伴い、根拠を残す可能性がありません。その点、オーケストラなら、言葉や国籍が違っても、モーツァルトやベートーヴェンを素晴らしく演奏したいという目標が変わりはないからです」と、福村さんは語ります。
今回の楽団員のオーディションでも、国に



よって技術水準が異なり、選抜に苦慮した面もあったそうですが、「統合のシンボル」の意義を尊重して、すべての国から演奏者が選ばれました。
「将来的には、このASEAN Symphony Orchestraを常設のオーケストラに成長させていきたい。それによって、アジア人ならではの音楽が創造できるのではないかとという夢も膨らみます。アジアの音楽事情に最も精通しているのは私であるという自信を持って、ライフワークとして取り組んでいきたいですね」と、福村さんは力強く抱負を語っています。(広報課)

